

さとやまの大切さを体で感じる一日 ひろしま「山の日」県民の集い

REPORT 3



◀遊歩道周辺の
樹木を観察



チェーンソーの目
立て(刃をとぐ)を
学ぶ参加者▶

ひろしま「山の日」県民の集いが6月5日、県内9市町10会場で開催されました。このイベントは、山や森の大切さを多くの人に知ってもらおうと始まったもので、今回で節目となる10回目を迎えました。庄原会場となった板橋町の「板橋さとやま学びの森」には、親子連れなど約230人が参加。チェーンソーを使って枯れマツなどを除伐する里山の手入れ講座や自生植物や樹木などの観察会、伐採した樹木を使ったコースター作りなどの体験プログラムにチャレンジしていました。野外ステージでは板橋小学校の児童による太鼓の演奏やポニーの乗馬体験なども行われ、子どもたちの歓声がこだましていました。参加者は、たっぷりの自然を体全体で感じながら、さとやまの一日を楽しんでいました。

昔懐かしい作業田植えの伝承 上湯川自治会が泥落とし会

REPORT 4

高野町の上湯川自治会が5月28日、「泥落とし会」として昔懐かしい伝統の作業田植えを行いました。

この行事は、4月の自治振興区の再編で自治会が発足したのを契機に十数年ぶりに行われたものです。

当日は、台風2号が接近するあいにくの雨模様の中、子どもから大人まで自治会員約40人が参加。田んぼに入った参加者は一列に並び、田植え唄のうた声と太鼓の調子に合わせて、約10アールの水田を1時間かけて植えていきました。

参加者は「昔はこうやってみんなで毎日植えていた」などと、地域の昔話で盛り上がっていました。

上湯川自治会の森山茂隆会長は「次回は未定だが、この伝統文化を受け継いでほしい」と話していました。



▲リズムに合わせて植えていく参加者

自然体験で心と体を育む 小奴可・八幡保育所で食育の取り組み

REPORT 1

小奴可保育所の3歳から5歳の園児45人が5月19日、地域の田んぼを借りて田植え体験を行いました。

田んぼに入った園児たちは横一列に並び、吉川由基子所長のかけ声に合わせて呼吸をそろえてもち米の苗を植えていきました。園児たちは「まっすぐ植えるのは難しいなあ」と慣れない田んぼに悪戦苦闘しながらも、皆で力を合わせて2.5アールを約1時間かけて植えました。



▲ささの葉を摘み取る園児



▲みんなどろんこに

域にある山野草の自生地で、くまざさ、ふじ、あけびを採取。「これがお茶になるんよね」「おいしいよね」と楽しみながら次々と集めていました。

集めた山野草を保育所へ持ち帰り、園児がはさみで細かく切り、蒸したものを手でもみ、その後、2週間ほど乾燥させ、ホットプレートで煎って出来上がりました。出来上がった山野草茶は、給食やおやつ時間に大切に飲んでいきます。

金メダル目指して水しぶき！ 第8回水夢フェスティバル

REPORT 2

西城温水プール「水夢」で6月5日、水夢フェスティバルが開催され、幼児から大人までの約100人が、24種目の水泳競技でタイムを競い合いました。

今回は、「水夢」利用者の幅を広げることを目的に、普段から利用している団体や利用者などで実行委員会を結成。5年ぶりの開催となりました。

競技の合間には、わんぱくキッズエアロによるエアロビックダンスや県立広島大学水泳部によるパフォーマンスなどアトラクションも充実。幼児と保護者が水の中で触れ合うベビースイミング教室では「水がこわい」と幼児が泣き出し、観客がプールサイドから励ます一幕も見られました。屋外の芝生広場では「西城の食と特産品」をテーマに、手打ちそばや健康野菜ジュースなどのバザーも設けられ、来場者は楽しいひと時を過ごしていました。

表彰台に立った小学生の一人は「メダルをもらってとても励みになった。もっと水泳をがんばりたい」と声を弾ませていました。



▲勢いよく飛び出す選手たち

今年こそ収穫アップ

下領家自治会が休耕畑に芋の植え付け

REPORT 8



総領自治振興区下領家自治会が、地域の休耕畑を活用したサツマイモの栽培に力を入れています。

今年で2年目となるこの取り組みは、庄原農業協同組合の呼びかけで始めたもので、芋焼酎の原料になる「紅あずま」を作付け育てます。昨年は、3.5%へ作付けましたが、猛暑の影響で収穫量が少なかったため、収穫量のアップを目指して今年は作付面積も7%に広げました。

5月22日、地域住民約20人が参加して行われた畝づくりでは、地元農家の皆さんが指導役となり、管理機を利用した耕うんや畝づくり、マルチ張りなどを協力して行いました。6月3日に苗の植え付けを完了。

同自治会はこのほかそばやネギの栽培も行うなど、みんなで共同作業を楽しんでいます。

自治会長の稲迫健二さんは「来年春、廿日市で行われる蔵祭りにみんなで行き、出来上がった焼酎をぜひ飲みたい」と意気込んでいました。

手際よく作業を進める参加者▶

梅雨の合間に白球でリフレッシュ

高野地域職域ソフトボール大会

REPORT 9



▲白熱した試合が展開

高野町内にある事業所や団体などが対抗して競う「職域ソフトボール大会」が6月19日、高野スポーツ広場など町内3つの施設を会場に開催されました。

この大会は、今年で43回目を迎

る歴史ある大会です。

当日は13チーム約200人が参加。中国横断道尾道松江線の工事関係者チームも参戦し、熱戦が繰り広げられました。

各会場では、笑いを誘う珍プレーや思わぬ好プレーが飛び出すなど、各チームとも普段とは違った仲間の活躍に大いに盛り上がっていました。

主催した市体育協会高野支部野球部の白根徹也部長は「皆さんの協力で今年も開催することができた。この歴史ある大会を今後も続けていきたい」と話していました。

登山者の安全を祈願して

第1回福田頭山開き

REPORT 10

主催した福田頭山開き実行委員会の会長岸田訓さんは「登山をしながらの滝巡りや空気のおいしさなど自然を皆さんに満喫してほしい」と話していました。



▲安全祈願のようす

比和総合運動公園野球場広場横で6月12日、第1回福田頭山開きが開催されました。

ひろしま百山に選ばれている福田頭は、標高1252mのブナ樹林帯が広がる手つかずの自然が残る山として、多くの登山愛好家に人気がある山です。

当日は、曇りのち雨というあいにくの天気でしたが、この安全祈願祭に広島市や雲南市などからも多くの登山愛好家が訪れました。

ボランティアガイド、公共の宿かさべるでの木元勲さんが、参加者を案内。参加者は「福田頭の魅力にひかれた」「途中から雨だったけど来てよかった。次は昇竜の滝まで行ってみたい」と声弾ませていました。

自分の体に合わせてゆっくり運動

ヨガ・ピラティス講座がスタート

REPORT 5

ヨガ・ピラティス講座が口和文化ホールヒューマンライツで始まりしました。



▲リラックスしてゆったりと運動

口和自治振興区と市が主催するこの講座は、今年で5年目。心と体をほぐす「ヨガ」と、筋肉を鍛え体のゆがみを治す「ピラティス」を組み合わせるもので、年齢に関係なく参加できます。

初日の5月10日には子ども3人を含めた27人が参加。インストラクターの上本一恵さんの指導のもと、癒やしの音楽を聴きながら、体を動かしたり体を伸ばしたりして、ほどよい汗を流しました。

講座は9月20日までの毎月第1・第3火曜日に行われ、事前申し込みは不要で、いつからでも自由に参加できます。

描いて乗せて出発進行!

ひまわりバスを庄原幼稚園児が描く

REPORT 6

ひまわりバスを描くイベントが6月3日、備北交通(株)本社屋横広場で行われました。

このイベントに庄原幼稚園の園児38人が参加。画用紙とクレヨンを手にした園児たちは、約30分かけて思い思いに「ひまわりバス」を描いていました。

備北交通(株)の脇本和男社長は「園児の皆さんに描いてもらった絵をひまわりバスに掲示すれば、乗客の方に喜んでもらえるのではと思い企画した。園児の皆さんにもひまわりバスに親んでもらえてよかった」と話していました。

園児が描いた絵39点は6月6日～20日の間、ひまわりバス車内に掲示され、乗客の目を楽しませていました。

ひまわりバスは市が運行を依頼する循環バスで、庄原



▲みんながんばって描きました

市街地の主要な公共施設や病院、ショッピングセンターを毎日11便循環運行しています。

熊よけの鈴で安全に通学を

社団法人庄原法人会が熊よけの鈴を寄贈

REPORT 7



▲目録を辰川教育長に手渡す三宅会長(左)

社団法人庄原法人会(三宅康文会長)は5月30日、設立20周年記念事業の一環として、昨年度の児童用傘に続き、熊よけの鈴850個を市教育委員会に寄贈しました。

現在、市内での熊の目撃や足跡確認などの情報は11件(今年1月から5月末まで)という状況となっており、三宅会長は「少しでも子どもたちが安全に通学できるように役立ててほしい」と話していました。

寄贈された熊よけの鈴は、希望のあった各小学校へ配布され有効に活用されています。